

令和2年度学校自己評価表（西大和学園中学校高等学校）

目指す学校像	磨かれた「知」を備え、豊かな人間性を持ち、世界を舞台に活躍する次世代を担うリーダーを育成する。
重点目標	1.英語を含む外国語の4技能（聞く・読む・話す・書く）を習得。
	2.中学3年次（アメリカグローバル研修プログラム）、高校1年次（海外探究プログラム）等の実践の場で4技能を使用するために必要な5つの力（主体性・協同性・思考力・判断力・表現力）を習得。
	3.グローバルな視野を広げ、世界で起きていることを自身に置き換え行動することのできる3つの力（多様性・課題発見力・課題解決力）の習得。

達成度	A	ほぼ達成（80%）
	B	概ね達成（60%以上）
	C	変化の兆し（40%以上）
	D	不十分（40%未満）

学校評価			
年度目標		年度評価	
No	課題項目	具体的な方策	課題項目の達成状況 自己評価 次年度への課題
1	4技能の習得	英語の授業 中学1年次から授業時間を週5時間確保し、中学英文法の指導のみならず、洋楽等を使用しながら発音・リスニングの指導にも力を入れる。中学2年次には、早期よりライティングの活動を取り入れ、既習文法をベースに自らの意見を述べる機会を積極的に設ける。また、中学2・3年次には週1時間、多読の時間を設け、辞書を用いずにアメリカの小学生向けに書かれた洋書講読を行うことで、速読力・類推力を養う。加えて、講読中に気になった表現や印象に残ったフレーズから、検定教科書や入試問題演習では養われない実用英語に触れる機会を増やす。	肯定的な意見が中学1年生では75.5%、中学2・3年生、高校編入1年生は80%以上であった。中学1年生で肯定的な意見が他学年に比べて低い理由としては、テストや発表、または外国語を使用する行事など、英語を実践的に使用する機会が他学年に比べて少なく、自身の4技能の習得の実感が低いと考えられる。
		国際理解 中学1年次は週2時間、中学2・3年次には週1時間、クラスサイズを半分にしてネイティブスピーカーにより、リスニングやスピーキングだけでなく、グループワークやディスカッション、速読などの活動を総合的に行う。	
		イマージョン 中学3年次と高校編入1年次に体育、音楽の実技教科オールイングリッシュで実施し、実際に体を動かしたり、実技演習を進めていくなかで自然と語彙・表現を理解し、その習得を目指す。	
2	主体性	英語の授業 自主課題や任意参加の講座を数多く設けることで、自らのニーズに合わせて英語力を総合的に伸ばしていく契機を用意する。	肯定的な意見が中学1・3年生では約70%、中学2年、高校編入1年生では約80%であった。行動しなければならぬ環境が用意されれば動くことができるが、自ら考え行動する姿勢がまだまだ低いと考える。
		国際理解 必ず毎月1～2回、自分の意見をクラス全体で語る場を作り、全体の前で発表する機会を設ける。	
		オンライン英会話 中学2・3年次に週1時間、オンライン上でネイティブスピーカーとの1：1のやりとりを実施し、自ら進んで会話をつなぐことでリスニング、スピーキングの能力伸長を目指す。	
	協同性	国際理解 グループワークを頻繁に行い、毎回構成員を変えることで、様々な生徒と1つの課題に取り組み、支え合う機会を設ける。	全学年で70～80%が肯定的な意見で、グループ内での自身の役割などを大半の生徒が見つけられていると考える。
		イマージョン 体育における運動や、音楽における実習のなかで、課題に対し協同して取り組む機会を設ける。	
	思考力	英語の授業 検定教科書や英字新聞の読解、英語プレゼンテーション動画を視聴し、国内にとどまらず、国際的な諸問題について英語で情報を収集し理解を目指す。	肯定的な意見が中学1年生では77.5%であったが、他学年は85%以上で、特に高校編入1年生では94.1%であった。個人やグループで考えをまとめる作業に対し、その達成を生徒が高く実感していると考えられる。
		国際理解 グループでのディスカッションを通じて、他者の意見に耳を傾け自身の意見との共通点や差異に注目し、多面的な思考力を養う訓練を行い、グループの意見をまとめて発表する場を設ける。	
	判断力	英語の授業 1学年上の題材を扱い、より抽象度の高いトピックに関する知見を学ぶことで、より批判的に物事をとらえる力を醸成する。	肯定的な意見が中学生では約70%～75%であったが、高校編入1年生では85%であった。難易度の高い内容や課題を扱っているため、中学生ではその理解度やそれを使用した活動で個々の生徒に差が生じていると考える。
		国際理解 様々なリスニング、リーディング教材を通じて、検定教科書のみでは学べないテーマ、判断が一筋縄ではいかない内容について教師や生徒間のディスカッションを通じて、様々な価値観を理解する。	
		イマージョン 毎回の授業でネイティブスピーカーにより提示される課題について、自分の意見をまとめていく過程を通じ、短い時間で一つの意見を提示するトレーニングを行う。	
	表現力	英語の授業 中学3年次のアメリカグローバル研修プログラムに向けて、アメリカ合衆国についてまとめたレポートやホストファミリーへの自己紹介文の作成を英語で行い、教員の添削をはじめとした指導を通じて、正確かつ洗練された表現を会得する。	肯定的な意見が中学1年生では73.9%で、高校編入1年生では79.2%、中学2・3年生では約84%以上であった。中学2・3年生では、オンライン英会話の成果がよく出ていると考える。それ以外の活動でも作品制作や、プレゼンテーションにより、表現力の習得を実感する生徒が多かったと考える。
		国際理解 中学1・2年次は、身近なテーマをもとにグループワークや発表・プレゼンテーション等を通じて、自身の思いを相手に伝えるための技法を習得する。また、中学3年次のアメリカグローバル研修プログラムに向けて、ホストファミリーや現地校での会話、ディスカッションを想定したペア・グループワークを実践する。	
イマージョン 音楽や体育の授業において、英語でのやり取りを通じ作品を完成させ、発表を行う。			
オンライン英会話 ネイティブスピーカーとの1：1の英会話の中で、自身の言いたいことを伝える機会を多く設ける。			
多様性	国際理解 ディスカッションにおいて、一つの意見を正解とするのではなく、様々な意見を正確に理解できるよう促す。	肯定的な意見が中学1・3年生で約75%、中学2年生、高校編入1年生で約85%であった。高校編入1年生では、普段の活動に加え、海外探究でのアジア諸国への訪問の成果がよく出ている。	
	オンライン英会話 毎回異なるネイティブスピーカーが担当し、馴れ合いにならず、常に新しい視点を提供する。		
3	課題発見力 中学3年次のアメリカグローバル研修、また希望者を対象に中学3年次の1～3月の3カ月間実施されるアメリカでの短期留学、高校1年次の海外探究旅行において、事前に訪問地の文化・歴史・教育・社会情勢等をグループでまとめる作業から現地調査するテーマを決め、クラスで共有する機会を設ける。訪問中は、事前学習で見出したテーマの調査に加え、日々の活動を振り返るレポートを作成し、自身のみならず、国際人としてステップアップしていくのに必要な考え方、アプローチを見つめる契機を設ける。	肯定的な意見は中学3年生で60.9%、高校編入1年生で85.2%であり、高校1年生ではその成果をおおむね達成できている。中学3年生では、教員から与えられていることに満足してしまっている生徒が多数いると考える。	
	課題解決力 中学3年次のアメリカグローバル研修、また希望者を対象に中学3年次の1～3月の3カ月間実施されるアメリカでの短期留学、高校1年次の海外探究旅行の事後学習において、自身の見つけた課題をグループで共有し、ディスカッションを通して自身が体験したことや他者の意見から自身の考えをまとめ、全体での発表の機会を設ける。	肯定的な意見は中学3年生で66%、高校編入1年生で90.1%であり、高校1年生ではその成果をよく達成できている。中学3年生では、課題発見力と同様、その解決に実感をとまなっていない生徒が大半いると考える。	

学校関係者評価	
意見・要望など	
<ul style="list-style-type: none"> ・チームティーチングによるサポートで生徒たちの理解度を深める環境整備が進められている。今後は、今まで以上に授業内容の深化を図っていくうえで、少人数制にして会話できる機会を増やすなども授業内容に合わせて検討してもよい。 ・ネイティブスピーカーの教師との授業は大変有意義であるが、全体的な習熟度からみて、内容をより高度なものにしていくことも必要であると感ずる。 ・授業内容の教育的効果の検証と評価、次年度に向けた修正について学校側とベアリッツ側での連携を今まで以上に図っていくことがよりよいプログラムの構築につながるのではないかと感じる。 ・イマージョン教育を通して、普段から英語を用いるのが当たり前環境をつくることにより、日々の英語の授業内においても各生徒の積極性が増し、特にリスニング能力の向上が促進されていると感ずる。 ・海外研修（ホームステイ、海外探究プログラムなど）において、生徒が現地の人々に対して積極的に英語でコミュニケーションをとる姿勢はイマージョン教育によって醸成されているところも大きいと感じる。 ・教科横断型の取り組みであるイマージョン教育は、日常の中の非日常を得ることができるという点でも、生徒の刺激や成長に欠かせないと強く感ずる。 ・グローバルリーダーの育成という観点から、高校生向けの日常的なプログラムや特に英語が堪能な中学生向けの特別プログラム、帰国生入試や外国人入試で入学した生徒対象のプログラムなどがあってもよいと感じる。 	

その他の取り組み（詳細は別紙参照）	
1：ヤングアメリカンズ	対象：中学3年生
2：短期留学プログラム	対象：中学3年生
3：アメリカグローバル研修プログラム	高校生ホームステイプログラム 対象：中学3年生、高校1年生
4：イングリッシュキャンプ	エンパワーメントプログラム 対象：中学3年生・高校1年生
5：海外探究プログラム	対象：高校1年生
6：模擬国連	対象：高校1年生・高校2年生
7：次世代リーダー養成プログラム	対象：高校1年生・高校2年生